

## レーシングとストリートの クロスポイント。

O.Z Racing (オーゼット・レーシング) の魅力は、レーシングとアフターとの距離が近いこと。究極的なコンペティションの場で鍛えられ、磨いた技術や精神を、ダイレクトにアフターホイールへと落とし込む。  
アバルト 500 シリーズには、そんな彼らの思想が濃密に宿る。  
すべてのアバルトライフに最適解を見出すため、彼らは理想像を追求する。

問い合わせ＝オーゼットジャパン  
https://www.oz-japan.com

文＝中三川大地  
text＝Daichi Nakamigawa



「勝つために必要なホイールなら O.Z(オーゼット) レーシングだ」という言葉は、いつの時代もマイスターの常套句として囁かれる。いわずと知れたイタリアンホイールメーカーだ。2025 年には創業 54 年を迎えた老舗にして、己の推進力としてモータースポーツへ情熱を傾けてきた。F1 や WRC、WEC などトップカテゴリーを含めた数多くのモータースポーツへとホイールを供給し、ゆうに 150 以上ものタイトルを獲得する。

その技術的蓄積を受けながら、街中でハツとするほど流麗で艶やかなアフターホイールを送り出す。その趣は必要から生まれた“機能美”で成り立っている。オーゼット・レーシングの R&D 部門では、レーシングとアフターホイールとの明確な区切りは設けられず、開発には同じエンジニアが携わるという。つまり彼らのアフターホイールを選ぶことは、F1 のエンジニアが描いたホイールを愛車に持ち

込むことと同義だといえる。

アバルト勢に用意されるホイールには、そんな彼らの姿勢が如実に浮かびあがる。なにしろヨーロッパ数カ国で開催されたワンメイクレース車両であるアセットコルサ・トロフェオへ純正採用されている。500、695 などモデルが進化を続けていく最中でも、一貫してその足もとを支えたのはオーゼット・レーシング製スコルピオーネだった。可愛い顔つきに 1 トン弱の軽量ボディだからといって、ホイールに妥協はできない。グリップ力の高いスリックタイヤで縁石を厭わず踏み抜いて限界に挑むレースであり、ホイールにかかる負担は尋常なものではない。さらに他者との接触を日常茶飯事というアグレッシブなレース展開で無事にゴールを迎えるためには、多少の衝撃があってもビクともしないホイールが必要不可欠だ。ドライバーを納得させる剛性感も大前提である。500 と 695 ではそれぞれ

専用設計(サイズ)で、使い回しはできないという。見た目はほぼ変わらずとも、出力性能に合わせて理想像を突き詰めるのがいかにもオーゼット・レーシングらしい。

そして、スコルピオーネをアフターホイールへと落とし込んだのがレジェンダである。表層だけを真似した類ではないことは、先に触れたオーゼット・レーシングの開発体制が物語る。7.0J × 17 インチというサイズで、アバルト 500 シリーズを完璧に支える。

スタイリングは実にシンプルだ。凝ったスポークデザインを取り入れているわけではない。しかし、だからこそ普遍的なたくましさを感じ、飽きることもない。質実剛健を体現するホイールであり、そのファニーな姿カタチを引き締めるレジェンダをみると、イタリアンコーディネートの粋が感じられる。

レーシングカー(ラリーカー)との距離が近いのは名作ラリーレーシングもまた然り。

### イタリア生まれ、モータースポーツ育ち

1971 年にシルヴァーノ・オゼッラドーレとピエトロ・ゼンが MINI クーパー用ラリーホイールを作ったところからオーゼットは始まった。78 年には正式に「OZ S.p.A」に。84 年には「O.Z Racing」を発足させて F1 にホイール供給を開始した。2024 年時点で 220 名(イタリアは 184 名)ものスタッフが働き、世界 70 カ国に製品を供給する国際企業となった。パドヴァの本社は R&D 部門、製造工場などを含めたオールインワンの施設であり、オーゼット・レーシングの製品群はすべてここで開発、生産されている。



### アバルトの足もとに欠かせないブランド

アセットコルサ・トロフェオや 500 ラリー R3T、124 ラリーといった競技車両のほか、市販モデルの多くにもオーゼット製ホイールが純正採用される。たとえば 695 ビボストにはウルトラ・レジェーラが起用された。「日曜日はサーキットへ、月曜日はオフィスへ」というビボストのコンセプトは、オーゼット・レーシングの趣旨とも合致する。ホイールにはしっかりと「O.Z Racing」のロゴが刻まれて黒子に徹していないところは、アバルト自身もオーゼット・レーシングに敬意を払っていることがわかる。



### Coming Soon!! RR40

本稿で記した通りアバルト勢には定番となったラリーレーシングの誕生から 40 周年を記念し、その進化版が間もなく登場する。その名も RR40(アールアールフォーティ)だ。ラリーレーシングの特徴であるディッシュデザインと、内に秘めたレーシングスピリットを継承しながら、ディッシュ面の肉抜きを含めてより現代的にブラッシュアップ。温故知新ならぬ温故創新といえるスポーツホイールだ。デリバリーは 2026 年春を予定しており、現在予約受付中。サイズはアバルトを想定した 7.5J × 17 インチ(+35 4h × 98)となる。



ハイパーチタニウム

レースホワイト

的な性能達成のみならず、長期的な信頼耐久性や品質の安定性、長期的な部品供給など厳しいハードルが立ちをはかる。そうした意味ではオーゼット・レーシング側も自動車メーカーの厳しい要求に応えることで、日々、鍛

えられている。モータースポーツと OES という両側面と向き合いながら切磋琢磨し、オーゼット・レーシング製アフターホイールは、常に進化を続ける。その象徴こそが、アバルト一連のバイビーギャングたちである。